



折り紙で作った熊本城
熊本地震で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます



やさしさを伝える ケア技術

2025年に高齢者人口がピークを迎えると予測されている我が国において、同時に認知症の問題がクローズアップされています(厚生省は認知症高齢者は2025年には約700万人に上ると推計)。
認知症の方は不安、とまどい、恐怖など様々な思いをされ、またご家族も、とまどいから始まり、混乱、怒り、あきらめ、そして受容という道をたどられる方が多いと言われています。
私たちは、認知症になって日常生活が困難になられてもいつまでも尊厳を持って暮らし、その生涯を通じて人間らしい

私たちはその方が認知症になっても、その生涯を通じて人間らしい存在であり続けることを支えます。

存在であり続けることを支える、プロ集団を目指します。それは「悪い」だけでは成すことはできません。技術を習得し正しいケアを実践できこそ、認知症を抱える方々向き合えると思います。
今回、白十字会グループではユマニチュードという技法を導入し、研修・勉強会を重ね、看護・介護職員だけでなく全ての職員が身に付け実践できるように取り組んでいきます。



プロジェクト委員の看護師と介護職員



伝達講習会の様子

- 相手の心配を取り除き、安心感を与えられると思うので活かしていきたいです。
- ご家族が見られても安心されるケアと思います。
- やはり人の手の温もりによるケアに勝るものはないと感じました。
- 利用者に優しい技術だと思います。
- 触れて、目を見て、話して頂くだけですごくホッと感じました。ご利用者にもホッとて頂ければと思います。



和やかな雰囲気での講習会

白十字会グループ ユマニチュード推進プロジェクト委員会



対象者に「あなたはここにいます」「私はあなたのことを大切に思っています」というメッセージを、言葉・表情・態度などで伝え続けます。(ユマニチュードの定義より)

通所リハビリ利用者 リハビリ会議開催中!

リハビリ会議は在宅生活において、現在行っているリハビリが適正で有効であるかを確認する場でもあります。
ご本人を中心に、ご家族、医師、リハビリスタッフ、ケアマネジャー、サービス提供事業所等が一同に介し、情報の共有、アドバイス等を行い、より生活に即したリハビリが提供できるよう、チームで取り組んでいきます。
通所リハビリ開始当初から6ヶ月間は毎月1回、半年経過後は3ヶ月に1回の開催となります。会議後は実際のリハビリ光景をご家族や担当ケアマネさんに見て頂くこともでき、短い時間ですが有意義な時間となっています。

効果的なリハビリを 目指して

ご家族、ケアマネさん、他事業所の皆さん、いつもお忙しい中、ご参加ありがとうございます!



実際の生活場面であるご自宅での指導の様子



廊下に飾られている熊本城

1日も早い復興を願って...

心痛めた熊本地震。多くの犠牲者を出し、今尚、沢山の方々厳しい避難生活を強いられています。
旅行情報サイトの「日本の城ランキング」で昨年まで3年連続1位に選ばれた熊本城も、やぐらや石垣が崩壊し大きな被害を受けました。
写真は折紙で作られた熊本城。たまたま地震前から廊下に飾っていたもので、今日もリハビリを見守っています。
隣県としても1日も早い力強い復興を願っています。



リハビリ会議の様子(当施設会議室にて)

リハビリテーション 相談窓口開設

お電話の際は「リハビリ相談窓口」とお伝え下さい

さあ、もう一度自分らしく!

さざ・煌きの里ではその人らしく生活ができるよう、リハビリの専門職に相談できる窓口をオープンしています。

平日 9時~16時
Tel 41-1122

白十字会グループで取り組んでいます

レンズを通して~中倉さんの世界

中倉志壮朗さんは写真家として、教会や信者を始め、海外にも足を運び、その土地の牧歌的な風景や人々を撮り続けていらっしゃいます。高校を卒業後上京され、雑誌に掲載されるア



黒島天主堂(佐世保市)

ルコール飲料の広告写真を手がけるなど第一線で活躍してこられました。その活動のフィールドをふるさと佐世保に移し、撮影を続けていらっしゃいます。
今回、ご縁があり写真の提供をお願いした所、快く引き受けていただき、作品をフロアに飾らせて頂いています。



ブータンの睡顔く女の子



中倉家はテレビでもお馴染み。日本民間放送連盟賞優秀賞に輝いた「中倉さんちの食べ物絵ごよみ」は、奥様が描く温かい絵に重なるように4人の子ども達との四季を通して食を考えさせられる内容で反響も大きかった。

